

# 保護者の知らない 高校生の今

保護者は「子どもと考えが同じ」と思っている、子どもは違うように考えていることがあるものです。ここでは小社「高校生と保護者の進路に関する意識調査」などをベースに、親子のギャップを見ていきます。

図3 グローバル社会で通用する人材への願望 (高校生・保護者/単一回答)

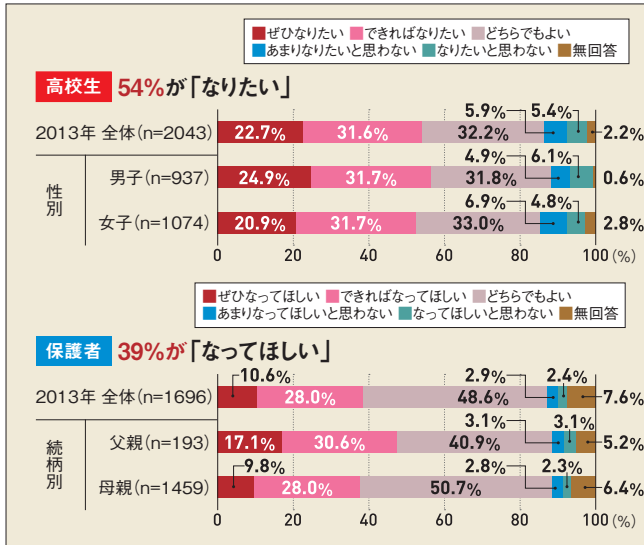
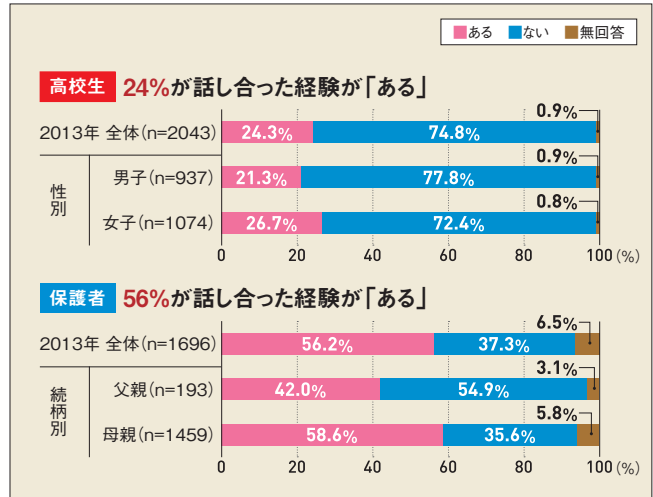
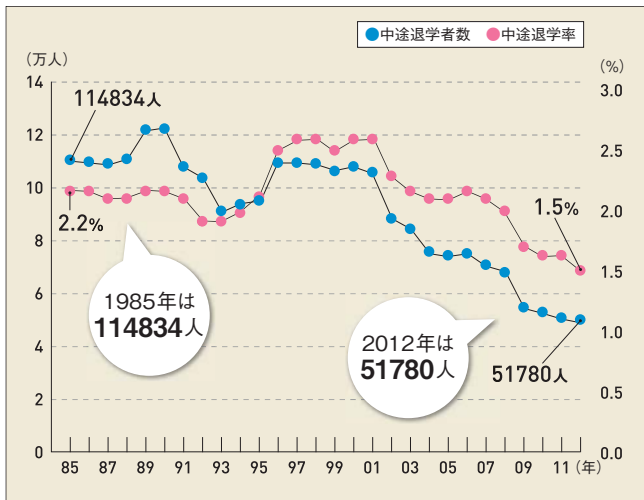


図1 「なぜ勉強しなければいけないのか」話し合った経験 (高校生・保護者/単一回答)



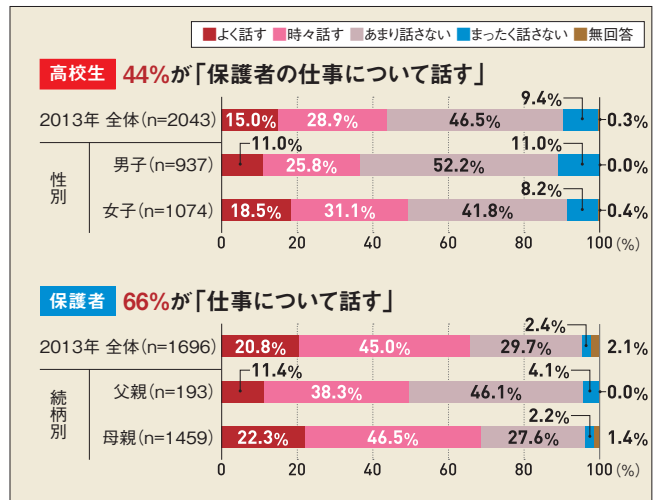
出典：図1～3「高校生と保護者の進路に関する意識調査2013」  
一般社団法人全国高等学校PTA連合会・株式会社リクルートマーケティングパートナーズ合同調査

図4 中途退学者数および中途退学率の推移 約30年間で半減



出典：「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」文部科学省(平成24年度)

図2 保護者の仕事(内容、楽しさ、大変さ)についての会話 (高校生・保護者/単一回答)



## 親子コミュニケーションに ギャップはないか？

お子さんと「なぜ勉強するのか」について話し合ったことがあるのでしょうか？ そのことを親子それぞれに尋ねたところ、回答に大きなギャップが見られました(図1)。「ある」と答えた高校生は24%、保護者は56%。保護者が「話し合った」と認識しても、子どもは「記憶にない」あるいは「話し合ったのではなく、言われただけ」ととらえているかもしれません。親子間の会話においては、このような相違があり得ることを示すデータといえるでしょう。

同様に「保護者の仕事に関する会話があるか」と尋ねたところ、「ある」と答えた高校生は44%、保護者は66%とギャップがありました(図2)。

また、「グローバル社会で通用する人材になりたいか」という問いに対して「なりたい」という高校生は54%、「なっていない」という保護者は39%(図3)。子どものほうが意欲の高い様子で、頼もしく感じます。

最後に、保護者世代の高校時代と現在とを比較したデータをひとつ。高校中途退学者数は減少しています(図4)。が、通信制高校への転校などは増加しており、一概に状況が良くなったとは言えないようです。